

環境事業団 P C B 処理技術懇談会議事要旨

- 1 開催日時 平成13年9月7日（金） 13：30～15：30
- 2 開催場所 虎ノ門パストラル本館8階 しらかばの間
- 3 出席者
永田座長、伊規須委員、酒井委員、田中委員、原口委員、細見委員、益永委員
- 4 議 題：（1）P C B 処理についてのまとめ
（2）検討すべき事項について
- 5 概要
各議題について、事務局より資料に基づき説明、主な意見は次のとおり。

（1）P C B 処理についてのまとめ
○焼却処理について否定するものではないが、P C B 特別措置法の立法の趣旨を踏まえて、当面、化学処理を対象に検討を進めるという P C B 処理の基本的な考え方を、懇談会のとおりまとめ報告書の冒頭で整理すること。
○環境安全施策について、北九州市の事例だけではなく、豊田市など他の自治体の事例についても整理すること。
○各社で提案されている処理システムに含まれている処理技術には、国の技術評価を受けているものとそうでないものがあり、その点が分かるように整理すること。

（2）検討すべき事項について
○高圧トランス・コンデンサの処理に関する技術的課題は、技術的な事項あるいは視点と言うべき内容であり、そのように整理すること。また、これらの事項については、検討のレベルの異なる内容が混在しており、必ずしも P C B 処理施設すべてに共通する内容ではない。特に大型トランスの処理は、現時点で技術評価がむずかしい点があり、当面の処理施設における検討事項とは別に整理すること。
○実際の処理では、どこの廃棄物をどれだけ集めるかという収集運搬の部分がむずかしい。中小事業者の廃棄物の優先的な処理なども念頭に置いて、具体的な処理計画を充分検討しておく必要がある。
○高圧トランス・コンデンサ以外の低圧トランス、安定器、感圧紙などについても検討の対象としておくこと。
○P C B 処理については、これまで技術評価はしているが、実際の処理実績はまだ少ないので、処理実績を次の他の事業に活かすことが重要であり、また、複数の処理施設が相互に補完するような全国的な視点が必要。

○P C B 処理の事業化についての観点は、自治体のレポートから取ったものと、委員の意見とは分けて整理すること。

6 今後の予定

懇談会は今回で終了し、懇談会としての報告書を取りまとめて、P C B 処理事業検討委員会に報告するとともに、引き続き検討の必要な事項は、委員会において検討を継続することを了解。

7 問い合わせ先

環境事業団 環境保全・廃棄物事業部処理技術室 □ 03-5251-1038